

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 国語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none"> ・授業や5分読書では、おおむね意欲的に取り組んでいる。 ・「話す・聞く」活動は積極的に取り組んでいる。聞き取りでは、単純な記憶問題は解答できるが、思考力を要する問題には課題が見られる。 ・「書く」活動は、以前よりあきらめずに書こうとする生徒が増えてきた。 ・「読む」活動は、読書が好きな生徒が多い。物語は得意だが、観念的な論説文は苦手な傾向がある。また、問題文の意図を理解できないことがある。 ・「知識」活動は漢字など意欲的に取り組むが、既習事項の定着に問題がある。
全国学力 学習状況調査	<ul style="list-style-type: none"> ・全問題平均正答率 73%。都平均 (74%) より低く、全国平均(72%)より高い。 ・「書くこと」正答率は 84%と、都 (83%)・全国平均(82%)をやや上回った。感想・意見を書く記述問題で正答率が高く、封筒の書き方等知識を要する問題では低い。他の4観点はいずれも都・全国平均を2~4%下回っている。また、記述式の問題の正答率が79%と、都 (77%)・全国平均(76%)を上回ったが選択問題は正答率が低い。 ・「生徒質問」では、「読書が好き」「国語が好き」で「当てはまる」と答えた生徒が約7割で都・全国平均を超えたが、家庭での読書時間や学習時間は短い傾向がある。「国語の授業内容がよくわかる」で「当てはまる」と答えた生徒は約9割であった。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・学力は例年全国平均並みに上がってきている。とくに、今まで苦手傾向だった作文への意欲と、能力の向上がみられる。この意欲を大切に、今後も引き続き作文練習の機会を積極的に取り入れる。
- ・知識や読解能力にはまだ課題がある。文章の意図を正しく読みとるように、実践練習を重ねたり、広いジャンルの読書に親しむ必要がある。また、1・2年での既習事項を、3年時でも随時反復学習し、基礎基本の知識を定着させていく必要がある。
- ・家庭での読書や学習の習慣づけを啓発する活動を、今後も継続する。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
自己との対話と読解力の向上	5分読書の継続・学校図書館との連携・多様なジャンルの本紹介などで、読書への意欲喚起を行い、自己との対話の深まりや読解力の向上を目指す。また、受験に向けた読解問題の実践練習を随時取り入れる。
基礎基本の定着と活用	漢字や文法・古典の基礎知識などを、関連する単元ごとに説明をしなおしたり、ワークやプリントで反復・定着させ、活用できるようにする。
見通しと振り返りの定着	さらなる「わかりやすい授業」を目指し、単元や毎時間のねらいを明示・振り返りの設定を行い、見通しをもたせ、主体的学習活動や学びの深まりを目指す。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 社会】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたり、問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">・発言も多く意欲的に学習に取り組む生徒が多い。ワークシートなども、生徒が工夫をし、それぞれにとって見やすくまとめることができる生徒が多くなった。・思考・判断・表現、技能の向上を目指す指導により、様々な資料（統計グラフ、写真、絵、地図、年表など）の活用から、必要な情報を取り出し、まとめ、表現する能力が伸びている。・1、2年生の基礎的知識が十分に身に付いていない場合が見られる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を意図的、計画的に行い、「考える力」をさらに育成する必要がある。

テストでの得点力は伸び悩んでおり、1、2年時の知識・理解の定着が必要である。

時事的な社会的事象に対し、関心を高める必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
「考える力」の育成	<ul style="list-style-type: none">・2年生に引き続き、学習した内容を「まとめ」、「説明」する活動を取り入れた授業を進める。また、複数の資料（年表・地図・グラフ・写真など）等を活用し、何が読み取れるかなどを十分に考え、それをさまざまな方法で表現する場面を多く取り入れる。
知識・理解	<ul style="list-style-type: none">・1、2年時の知識・理解の定着を図るために、授業の一部を使い、振り返り学習を行う。・新聞等を活用し、時事的な事柄を授業の中で取り扱う場面を設ける。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】 【教科 数学】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	多くの生徒は意欲的に学習に取り組み、課題を協力し合って取り組む関係性ができている。 自分で課題解決をしようと努力するが、計算ミスがとても多く、基礎・基本の定着に課題がある。計算の見直しをする生徒がとて少ない。
全国学力 学習状況調査	平均正答率が64%で、東京都(62%)、全国(59.8%)よりも高い値を示している。細かく見ていくと、短答式の野問題は73%であり、東京都69.1%よりも高い。しかしながら、数学的な見方や考え方の分野は54.3%と東京都(52.8%)、全国(51.0%)とともに若干低い確率である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

数学的な見方・考え方がなかなか定着しない。計算問題は、できたとしても数学的に考えて道筋をたてて考えといていく力が若干不足しているということがわかる。また、解き終わったらそのままで見返してもう一度問題について考えるという時間が不足している。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
授業規律の確立と 学習習慣の定着	<ul style="list-style-type: none">規則正しい生活習慣の確立、授業内・朝学習等による反復練習の徹底補助教材やICTを利用した教材の作成・研究を進める。
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">毎時間、習熟度による個人指導の徹底文章題の問題など、数学的に考えて解いていくという内容を学習するたびに復習する。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 理科】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業には集中して取り組み、一問一答形式では多くの生徒が発言をしている。しかし、考えを述べる場面では発言者が少なくなる。授業中は理解できているが、1・2年の知識などが定着していない場合が多い。既習事項を元に思考すること、実験結果から考察につなげることが苦手な傾向が見られる。実験においては、班員で協力を行い、実験へ取り組んでおり、実験器具の取扱いについては、おおむね満足できる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

理科の学習に対する意欲は認められる。しかし、学習習慣や1・2年の知識が定着していないため、それらの既習事項を活用することが十分にできていない。実験結果から考察する力、自分の言葉で表現する力が十分でない。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
1・2年の復習	<ul style="list-style-type: none">授業で関連事項が出てきたときに、復習を行う。定期考査で1・2年の復習から出題し、学習を促す。
思考力・表現力の育成	<ul style="list-style-type: none">図やグラフなどで理解した事柄を文章にする時間をとる。実験や観察後に、考察として考えたことをクラスで共有し、相互の表現力の向上を図る。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 音楽】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	多くの生徒が授業における規律やルールを守り、意欲的に取り組んでいる。そして、基礎知識の理解、定着もできてきている。しかし、身に付けた基礎知識が実際の作品で生かされていないと感じている。歌唱においては、授業を楽しみに来ている生徒が多く、一人一人が確かな力を付けてきている。また器楽面においては、興味をもって取り組んでいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

歌唱においては、音程を合わせていくことやお互いの声を聴き合うことは、これまで培ってきたものが定着している。しかし、音楽表現の幅を広げることが難しい状態である。この根本は、音楽の基礎知識が実際の作品に生かされていないために生じていると考えている。また鑑賞では、曲想のイメージを感じ取って聴くことは、少しずつ改善されている。引き続き、時代背景や作曲者の意図や思いを照らし合わせながら鑑賞していき、音楽表現の幅を広げられるようすることが課題である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT 機器の 効果的な活用	<ul style="list-style-type: none">本時のねらいを明確にするために、ICT 機器を効果的に活用し、見通しをもった授業展開をする。
基礎・基本、 技能の向上	<ul style="list-style-type: none">音楽の基礎知識を生かし、音楽表現につながるようにさせる。発声練習を充実させ、綺麗な声で歌えるよう発展的な技能を身に付けさせる。合唱を通して、核となるリーダーを育て、お互いに学び、高め合う姿勢を醸成させる。楽器を使用する際は、ペアワークをメインにし、生徒同士が高め合えるような指導を行っていく。
表現の工夫	<ul style="list-style-type: none">グループ発表の場を増やし、お互いに認め合う心を育てる。より専門的な表現の幅を広げるために、歌詞の意味を理解したり時代背景、作者の願いを調べたりすることを通して、身体全体で表現できるような喜びをもたせる。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 美術】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">習得した美術体験を、新たな課題に対して発揮していこうとする意欲的な態度がある。自分の発想を大切に表現しようとするが、表現技法が十分身に付いていないことから、表現活動に結び付かない傾向がある。作業の進み具合の個人差が大きく、授業外での制作を必要とする場合がある。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- 創作意欲があっても美術作品としての表現力に結び付かない傾向がある。それぞれの課題について、生徒個々の表現活動における課題を細かく観察して、適切な指導を行うことが課題である。
- 課題に対して、意欲的に取り組もうとする姿勢をさらに高める態度を育成することが課題である。自己との対話を深く掘り下げさせられる指導が必要である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT の活用	<ul style="list-style-type: none">効果的な表現方法が理解できるように、個に応じた制作のポイントをタブレットの活用で映像や画像を例示し、視覚的に把握させる。
基礎的な技能の向上	<ul style="list-style-type: none">表現の幅を広げるための指導方法の工夫を行い、生徒が興味をもって創作活動ができるようにする。また、身の回りの美術に触れさせ、美術の社会的役割を理解させることで、表現活動を身近な生活の営みの一つとして理解させ、創作活動を喚起させる。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 男子保健体育】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする、問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	各領域、単元、種目ごとに、運動体験が不足していたり、あるいは未習得であったりする場合が見られる。特に、陸上競技に関する経験が不足している。中でも、アジリティなどの細かいステップ、動作を苦手とする傾向が見られる。
東京都統一 体力テスト	全ての種目で全国平均を下回っており、特に立ち幅跳び、長座体前屈が大きい下回っている傾向にある。瞬発力・柔軟性の向上を図る必要がある。50m走は東京都平均と同じであり、全国平均に近い数値である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

保健体育の授業での思考判断の部分では、言語活動を苦手とする傾向が見られる。学習カードに、自らの考えを、時間をかけて整理して書くということができるようになってきた。しかし、授業内でのグループ活動内において、言葉で教え合うという部分は苦手と感じている様子が見られる。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業規律の確立 ・ 体力・学力の向上 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 集団行動の徹底による迅速かつ安全な行動。 ・ 毎授業での授業規律の明示 ・ 各競技の特性に応じた準備運動。コーディネーショントレーニング。 ・ 各体力要因についての理解と各自の実態把握、毎時間の補強運動の実施。 ・ 小グループ活動を増やし、教え合いによる言語活動の充実を図る。 ・ 教え合いの役割による一人一人の自己肯定感の増進を図る。
<ul style="list-style-type: none"> ・ 基礎基本、技能の向上 ・ 教材の工夫 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 技能差に応じた課題設定。 ・ 運動の特性理解と反復練習等による基礎基本、技能の向上の定着。 ・ 技能差に応じた教材教具の工夫と場の設定。 ・ 実際の指導場面による適切な教材教具の工夫と場の設定。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】 【教科 女子保健体育】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	授業において、自ら進んで行動し、集団としても自主的に取り組んでいる。持久走においては、平均273.3秒となり、全国平均278.4秒を大きく上回る結果となっている。学年全体としての「何事にもあきらめずやりきる」という意識が高く、仲間と共に励まし合いながら学習している。
東京都統一 体力テスト	体力テストの結果から、全国の平均値を下回った種目・握力(学校平均21.5kg、全国平均24.4)・長座体前屈(学校平均42.4cm、全国平均46.6)・立ち幅跳び(学校平均160.4cm、全国平均170.7cm)・ハンドボール投げ(学校平均14m、全国平均13.5)の記録の向上が課題である。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

各領域、単元、種目ごとに、楽しさや喜び、共に学び合い達成感を味わうことができている。しかし、運動体験が不足していたり、あるいは未習得であったりする傾向が見られるため、それぞれの特性に応じた、きめ細かな指導が課題となる。特に、球技に関する経験が不足している。また、空間認知能力の、捕る、投げるなどの動作に課題が見られる。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
体力の向上	<ul style="list-style-type: none"> 各競技の特性に応じた準備運動やコーディネーショントレーニングを行う。 各体力要因についての理解と各自の実態把握、毎時間の補強運動を実施する。
基礎基本、技能の向上	<ul style="list-style-type: none"> 小グループ活動を増やし、教え合いによる言語活動の充実を図る。 運動の特性理解と反復練習等による基礎・基本、技能の向上の定着を図る。 学習カードを活用し、運動のポイントや解決策などを自分の言葉で記入し、論理的な表現をできるようにする。 技能差に応じた課題設定と運動の特性理解と反復練習等による基礎・基本、技能の向上の定着を図る。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】 【 技術 】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">・ 明るく元気な生徒が多く、発言も積極的である。・ 多くの生徒が授業における規律やルールを守り、課題に対して意欲的に取り組んでいる。・ 隔週の授業であるが行事などで数週間、授業があくことがあり、興味・関心をもち続けることに個人差が生じやすい。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

- ・ 発言も多く、授業に対する態度は積極的で良いが、作業の理解が不十分なまま、取り組んでいる場合が少なからず見られる。
- ・ 周囲と教え合いながら作業をしても、遅れがちな生徒については、机間指導を頻繁に行い、適切な個別指導をする必要がある。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
ICT 機器の 効果的な活用	<ul style="list-style-type: none">・ 前時の学習内容を短時間で確認するために、ICT 機器を効果的に活用し、同時に作業内容を分かりやすく伝え、見通しをもった授業展開をする。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">・ プレゼンテーションソフトを使用して課題をまとめ、表現する能力の向上に努める。また、生徒が興味・関心を抱く実用的な教材としてプログラミングの概念を習得させる。
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">・ 興味・関心を失わないように指導の工夫を重ね、机間指導を頻繁に行うことで、実習作業の遅れがちな生徒のつまずきに的確なアドバイスを継続的に行う。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【 家庭 】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また、基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	<ul style="list-style-type: none">授業における規律を守り、意欲的に取り組んでいる。隔週の授業のため、興味関心を持続させるところが難しい場合がある。自分の生活を振り返りながら授業に臨んでいる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

授業へ意欲的に参加する生徒が多いが、消極的な生徒もいる。一人で考えるだけでなく、少人数のグループで話し合ったり、作業に取り組んだりすることで、興味・関心をもち内容を深めていくことが課題である。また、生活体験の違いは大きいですが、他の生徒の話聞くことで家庭生活に対する多様なイメージをもたせることが必要である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
個に応じた指導	<ul style="list-style-type: none">計画通りに作品製作が進められない生徒に対して、手助けとアドバイスのより一人一人に細やかな指導行う。
教材の工夫	<ul style="list-style-type: none">短時間の中で作品が完成するように、絵本作りの計画を夏休みの課題として、時間を上手に配分して作業が進められるようにする。隔週の授業なので、1時間で完結していくように授業内容を精選していく。
主体的・対話的で深い学びの工夫	<ul style="list-style-type: none">既習事項や実生活での体験を踏まえ、よりよく生活するための方法を考え、グループでの意見交換や発表をし合うことで、自分の生活を振り返り、実生活に生かせる力を付けさせる。

平成31年度 授業改善推進プラン

【学年 3年生】【教科 英語】

1 学校として「目指す学力」や「目指す授業」

立川第七中学校の「目指す学力」とは、人間形成の基礎・基本となる力であり、物事に対して主体的に取り組む意欲・態度及び基礎的・基本的な学力のことである。

立川第七中学校の「目指す授業」とは、見通しと振り返りを重視し、生徒が自ら考える主体的な学びから対話的な学びにつながり、その過程で考えを深めたり広めたりする問題解決的な学習展開による授業である。また基礎的な知識や技能を活用し、自分の考えを表現する場面が設定される授業である。さらに、ICT 機器を効果的に活用することで、常に学習意欲を高める工夫がなされている授業である。

2 生徒の現状

分析項目	分析の結果
授業の様子 授業評価等	授業では、対話的な活動であるペア活動やスピーチには、積極的に取り組む生徒が多い。その反面、書く活動、読む活動、単語の暗記など、忍耐を要する学習になると、極度に意欲が低下する傾向が見られる。また、家庭学習の習慣が身に付いていない様子もみられる。しかし、同学年の昨年度と比べて、ワークの仕上がり、朝テスト、一学期の中間・期末テストの結果などをみると、その傾向は確実に減ってきているといえる。

3 生徒の学力・学習状況等の課題（上記分析を踏まえて）

話す活動では、積極的に取り組む生徒が多く、英語学習に対しての意欲はある。しかし、家庭学習の習慣が身に付いていない傾向が見られることが一番の課題である。英文や文法をしっかり理解し、その後の反復による運用が理解した知識を脳に定着させるといった順序を大事にし、英語学習のプロセスの大切さを生徒に理解させることが大切である。生徒の英語学習に対してモチベーションが上がる、分かりやすく、生徒参加型の授業を展開することが必要である。

4 授業改善策（上記課題を踏まえて）

改善項目	具体的な改善策
基礎・基本の徹底した授業	授業内で学習事項の内容理解と理解した内容を徹底的に音読し、授業内で定着させる時間を確保する。こうすれば、生徒は知識が定着した状態で、家庭学習に臨むことになり、ストレスを感じずに家庭学習に取り組むことができる。また、3年次の教科書で1・2年次の既習の文法事項・表現も、出てくれば、パターンプラクティスなどを通して反復のある復習をする。
分かりやすい授業	理解していない生徒がいれば、適宜、日本語で簡潔な解説を加えるなどする。生徒がペア活動を行っている間の机間指導中に、理解できていない生徒をケアする。
生徒の英語運用を中心とした授業	本校の生徒の特性を考えれば、「英語でもっと話せるようになりたい」という気持ちだが、生徒を主体的な家庭学習に導くと考える。授業内で生徒が好むペア活動などの「運用（習ったことを使い英語で他生徒と話す対話的な活動）の時間」も十分にとり、自分の考えを表現する楽しさを感じさせながら、モチベーションを上げ、家庭学習につなげる。